

# 消防年報

平成 25 年度版



---

遠野市消防本部

# 遠野消防早見ガイド

## 管内の概要



面積 825.62 km<sup>2</sup>  
人口 29,310人  
世帯数 10,875戸

## 総務

### 署所

消防本部 1  
消防署 1  
出張所 1



### 署員数



定数 53人  
実数 52人

### 消防団員数



定数 1,030人  
実数 928人

## 施設



### 防火対象物

1,132件



### 危険物施設

製造所 2件  
貯蔵所 128件  
取扱所 53件

## 警防

火災件数 18件



建物火災 4件  
林野火災 1件  
車両火災 2件  
その他 11件

救急件数 1,128件



急病 742件  
一般負傷 123件  
交通事故 81件  
その他 182件

救助件数 17件



交通事故 11件  
水難事故 1件  
建築物事故 0件  
その他 5件

## 車両

### 緊急車両



タンク車 1  
ポンプ車 3  
救助工作車 1

救急車 3  
指揮車 3  
資機材搬送車 1

### 消防団車両

ポンプ車 15  
積載車 53

# は じ め に

この消防年報は、平成25年度(2013年)中の活動概況等を収録したものです。広く消防・防災情報として住民の皆さんに提供することで、現況と課題を御理解いただくとともに、その推進について御協力をいただければ幸いです。

平成 26 年 10 月

遠野市消防本部

# 目 次

概要		
1	遠野市のあらまし	1
2	世帯数及び人口の推移	2
3	消防の沿革	3
4	遠野市消防本部・署所所在地	8
総務		
1	遠野市消防本部組織図	11
2	平成 25 年度中の主な行事・災害	12
3	遠野市の決算状況	15
4	消防予算と世帯当たり及び人口 1 人当たりの消防予算	16
5	階級別・年齢別職員数	17
6	在職年数別消防職員数	17
7	平成 25 年度職員の研修・資格取得状況	18
8	遠野市総合防災センター見学者数	19
予防		
1	建築同意	23
2	消防用設備等の規制	24
3	住宅用火災警報器	28
4	防火団体等の現況	29
5	危険物規制	31
6	産業保安規制	32
警防		
1	平成 25 年の火災概況	37
2	救急業務の現況	44
3	救助業務の現況	52
4	管内の気象状況	56
消防団		
1	遠野市消防団組織及び分団配置図	63
2	階級別定員数	64
3	年齢別・階級別団員数	64
4	勤続年数別団員数	65
5	年別消防団員数	65
6	消防団協力事業所一覧	66
施設		
1	消防水利	71
2	消防本部車両配備状況	71
3	ヘリコプター離着陸場	72
4	消防防災通信施設状況	73
5	災害時要援護者通報関係システム	74
6	遠野市消防団車両配備状況	75
防災		
1	災害対策本部・警戒本部の設置状況	79
2	避難場所	83
3	防災資機材倉庫	93
4	自主防災組織	97
5	防災教育	100

# 遠野市のあらし

## 1 遠野市の概要

遠野市は、岩手県を縦断する北上高地の中南部に位置し、藩政時代から内陸と沿岸を結ぶ交通、産業の要所になっています。

市の周囲は、標高 1,917mの早池峰山を最高峰に標高300~700mの高原群が取り囲み、その山々から流れ出る清水は、早瀬川や宮守川などの河川から猿ヶ石川に集まり、遠野市内を流れています。

昭和29年に遠野町、綾織村、小友村、附馬牛村、松崎村、土淵村、青笹村、上郷村の1町7村が合併、平成17年10月に宮守村と合併し現在に至っています。

当市は、柳田國男の遠野物語発祥の地として「民話のふるさと遠野」の名で知られ、また、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」を連想させるめがね橋の情景など、大自然との共生の中から生まれた風土色豊かな郷土文化は、貴重な遺産となっています。

また、平成23年度から「遠野市総合計画」（後期基本計画）のもと「永遠の日本のふるさと遠野」を将来像とし、下記の大綱を掲げ、実現に向けて新しいまちづくりに取り組んでいます。

- 大綱1 自然を愛し共生するまちづくり
- 大綱2 健やかに人が輝くまちづくり
- 大綱3 活力を創意で築くまちづくり
- 大綱4 ふるさとの文化を育むまちづくり
- 大綱5 みんなで考え支えあうまちづくり

## 2 面積及び位置

遠野市の面積 825.62Km<sup>2</sup>  
(東西38.5km・南北38.2km)

遠野市の位置 東端(東経 141° 44' 59")  
西端(東経 141° 18' 12")  
南端(北緯 39° 11' 21")  
北端(北緯 39° 33' 21")

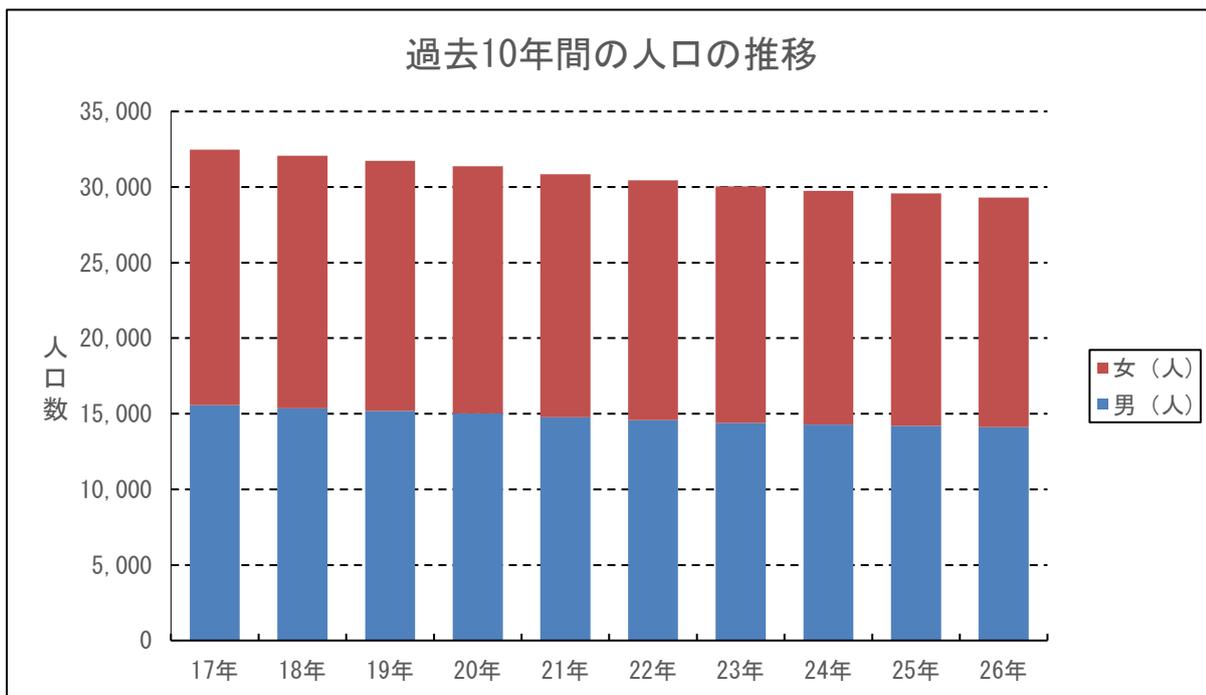
## 3 主要な交通路

- JR釜石線  
(花巻市→**遠野市**→釜石市)
- 国道107号  
(大船渡市→**遠野市**→由利本荘市)
- 国道283号  
(釜石市→**遠野市**→花巻市)
- 国道340号  
(陸前高田市→**遠野市**→八戸市)
- 国道396号  
(**遠野市**→盛岡市)

## 世帯数及び人口の推移

各年3月31日現在

	世帯数(戸)	総人口(人)	男(人)	女(人)	1km <sup>2</sup> 当たりの人口(人)
平成17年	10,629	32,479	15,578	16,901	39.34
平成18年	10,690	32,072	15,367	16,705	38.85
平成19年	10,734	31,734	15,191	16,543	38.43
平成20年	10,730	31,371	15,028	16,343	38.00
平成21年	10,706	30,854	14,775	16,079	37.37
平成22年	10,673	30,455	14,576	15,879	36.89
平成23年	10,668	30,035	14,392	15,643	36.38
平成24年	10,705	29,746	14,282	15,464	36.03
平成25年	10,795	29,587	14,209	15,378	35.84
平成26年	10,875	29,310	14,107	15,203	35.00



## 消 防 の 沿 革

昭和31年	11月	遠野市消防本部設置 初代消防長に瀬川長悦（事務取扱）が就任 水槽付消防ポンプ自動車1台を配置 職員5名配置
昭和34年	4月	遠野市消防署を設置 電話119番受付開始 職員6名配置
	7月	第2代消防長に市長村上順弥が就任
	11月	ジープ級消防ポンプ自動車1台を消防署に配置
昭和35年	4月	職員2名増員
昭和36年	2月	消防本部（消防署）庁舎落成 望楼（25m）新設
	4月	職員2名増員
昭和37年	4月	職員1名増員
昭和40年	2月	化学水槽付消防ポンプ自動車を消防署に配置
	4月	職員2名増員
	12月	消防ポンプ自動車1台を消防署に配置
昭和41年	10月	消防無線基地局、移動無線局各1基を設置
昭和42年	3月	第3代消防長に市長工藤千蔵（事務取扱）が就任
	4月	職員2名増員
	7月	岩手県総合防災訓練を実施（本市会場）
昭和43年	4月	職員4名増員
	6月	消防ポンプ自動車を消防署に配置（日本損害保険協会寄贈）
昭和44年	2月	消防ポンプ自動車を消防署に配置
	4月	職員2名増員
	10月	第4代消防長に堀切重五郎が就任
	12月	救急車1台購入 消防無線移動局1基新設 職員23名に増員
昭和45年	1月	救急業務開始
	5月	消防本部指令車を更新
	11月	消防無線移動局1基増設
昭和46年	6月	遠野地区消防事務組合庁舎建築工事着工（敷地面積1,897㎡）
昭和47年	2月	遠野地区消防事務組合庁舎完成（庁舎面積757.58㎡）
昭和48年	2月	消防ポンプ自動車1台購入
	4月	遠野地区消防事務組合発足（1消防本部・1消防署・1分署） 管理者に遠野市長工藤千蔵、消防長に堀切重五郎が就任 消防職員36名（新採用11名）
	6月	宮守分署に救急自動車（2B型）を配置
	7月	遠野消防署宮守分署庁舎建築工事着工（敷地面積550.00㎡）
	8月	職員2名増員（消防職員38名）
	11月	遠野消防署宮守分署庁舎完成（庁舎面積211.90㎡）
	12月	宮守分署業務開始 職員9名・消防ポンプ自動車1台・救急自動車（2B型） 無線基地局1基・移動局2基

昭和49年	3月	職員定数条例を38名とする(消防吏員 36外)
	4月	職員4名増員(消防職員42名)
昭和50年	3月	消防本部2課4係に改組 総務課(庶務係・経理係) 消防課(予防係・警防係)
	4月	第2代消防長に市長工藤千蔵(消防長事務取扱)が就任 職員1名増員(消防職員43名)
	9月	遠野消防署に救急自動車(2B型)を更新配置
	10月	第3代消防長に瀬川権太郎が就任
昭和51年	9月	消防本部に広報車を配置(日本防火協会寄贈)
昭和52年	4月	職員1名増員(消防職員44名)
昭和53年	10月	消防本部に防火広報車を配置(日本防火協会寄贈)
昭和54年	3月	職員定数条例を42名とする(消防吏員 41外)
	4月	職員4名採用
	10月	職員定数条例を44名とする(消防吏員 43外)
昭和55年	4月	第4代消防長に三嶋敏明が就任 職員3名採用
	8月	消防本部に司令車を更新配置
	12月	岩手県防災行政無線完成、消防本部に端末局設置 職員定数条例を46名とする(消防吏員 45外)
昭和56年	4月	第5代消防長に遠野市助役及川増雄(消防長事務取扱)が就任 職員2名採用
昭和57年	4月	第2代管理者に遠野市長小原正巳が就任 職員2名採用
	7月	第6代消防長(消防長心得)に菊池 信が就任
	8月	遠野消防署に水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を更新配置
昭和58年	8月	第7代消防長に遠野市助役梅田収得(消防長事務取扱)が就任 宮守分署に救急車(2B型)を更新配置
昭和59年	4月	第8代消防長に菊池 勉が就任
	7月	職員3名採用
	8月	消防本部に広報車を更新配置
昭和60年	9月	消防本部に査察広報車を更新配置
昭和61年	3月	遠野消防署に救急車(2B型)を更新配置
	6月	第9代消防長に千葉富三が就任
昭和61年	9月	遠野消防署に消防ポンプ自動車1台(BD-I型)を更新配置
昭和63年	3月	遠野地区消防事務組本部設置15周年記念式典
	4月	当直勤務3部制を実施
	11月	自治体消防制度40周年記念誌 遠野郷消防総監「絆」発行
平成元年	4月	第10代消防長に山蔭敬二が就任 消防緊急情報システム(同報系)、災害弱者緊急通報システム設置 職員1名採用
平成2年	4月	職員1名採用(消防職員45名)
平成3年	4月	第11代消防長に佐々木一彦が就任 職員1名採用(消防職員45名) 消防本部に消防次長職を設置
	6月	消防本部の防火広報車を更新配置
	11月	遠野消防署の査察広報車を更新配置
	12月	宮守分署に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配置
平成4年	3月	消防指揮車を配置

	4月	第12代消防長に佐々木光一が就任 職員1名採用（消防職員45名）
	6月	職員定数条例を47人とする。 （消防吏員46人・消防吏員以外の消防職員1人）
平成5年	2月	患者監視装置を救急車（遠野）に搭載（救急業務高度化推進）
	4月	職員1名増員（職員2名採用・消防職員47名）
	9月	消防本部災害活動組織を明確化し災害時の体制を強化
	10月	職員定数条例を48人とする （消防吏員47人・消防吏員以外の消防職員1人） （財）日本消防協会より山間地仕様救急車受納、宮守分署に配置
	11月	患者監視装置を救急車（宮守）に搭載（救急業務高度化推進）
	12月	消防署に消防無線車（現場指揮隊）を配置
平成6年	4月	第3代管理者に遠野市長菊池 正が就任 第13代消防長遠野市助役中居健雄（消防長事務取扱）が就任 職員1名増員（職員1名採用・消防職員48名）
	5月	救急救命士資格取得1名（第1号）
	7月	職員定数条例を49人とする。 （消防吏員47人・消防吏員以外の消防職員1人）
	8月	消防本部に災害時現場指揮所 多数傷病者の収容を目的としたエアーテントを配備
	9月	遠野消防署に消防ポンプ自動車1台（CD-I型）を更新配置
	10月	消防本部に指揮支援用司令広報車を配置
平成7年	3月	応急救護処置普及資器材を整備し、住民の救急指導の促進 自動心マッサージ機等を装備し、応急処置9項目の完全実施を図る
	4月	第14代消防長に田代春男が就任 職員1名増員（職員3名採用・消防職員49名）
	5月	救急救命士資格取得1名（計2名）
	9月	平成7年度岩手県総合防災訓練（会場：遠野市）
	10月	緊急消防援助隊組織に編入（消火部隊）
平成8年	4月	遠野消防署に高規格救急車を配置・救急救命士による高度救急隊運用開始
	5月	救急救命士資格取得1名（計3名）
	9月	宮守分署一部改築工事完了
	10月	職員定数条例を51人とする。 （消防吏員50人・消防吏員以外の消防職員1人）
		平成8年遠野市総合防災訓練
平成9年	4月	職員1名増員（職員1名採用・宮守村派遣職員1名任用・消防職員50人）
	9月	職員定数条例を52人とする。 （消防吏員51人・消防吏員以外の消防職員1人）
平成10年	1月	救助工作車（II型）を導入
	4月	職員2名増員（職員2名採用・消防職員52名） 遠野消防署に救助工作車を配備、運用開始 岩手県防災航空隊へ職員1名派遣
	6月	自治体消防制度50周年記念誌「愛郷」発行
	10月	職員定数条例を53人とする。 （消防吏員52人・消防吏員以外の消防職員1人）
平成11年	3月	宮守分署に指揮広報車を配置
	4月	第15代消防長に菊池 年が就任 職員1名増員（職員1名採用・消防職員53名）

平成11年	5月	救急救命士資格取得1名(計4名)
	6月	災害弱者緊急通報システムセンター装置更新
	10月	遠野消防署に水槽付消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を更新配置
平成12年	4月	消防本部2課5係 遠野消防署3係に改組 総務課(庶務係・消防係) 消防課(警防係・予防係・保安指導係) 遠野消防署(警防係・予防係・救急救助係) 職員1名採用
	5月	救急救命士資格取得1名(計5名)
平成13年	3月	宮守分署に高規格救急車を配置・運用開始
	4月	第16代消防長に白金久四郎が就任
	5月	救急救命士資格取得1名(計6名)
平成14年	1月	平成13年度1.17合同防災訓練(会場:遠野市)
	4月	第4代管理者に遠野市長本田敏秋が就任 第17代消防長に松本武則(消防長心得)が就任 職員1名採用
平成15年	2月	遠野消防署に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配置
	4月	第18代消防長に照井公一が就任 職員2名採用 遠野市の機構改革に合わせて消防本部総務課庶務係を総務係に改め、 消防課保安指導係を廃止する 遠野地区消防事務組合発足30周年
	7月	遠野地区消防事務組合発足30周年記念式典
平成16年	3月	遠野消防署に非常用救急車を更新し高規格救急車を配置
	4月	職員1名採用
	11月	遠野消防署に査察広報車を更新配置 救急救命士資格取得1名(計7名)
平成17年	3月	遠野消防署に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配置
	4月	第19代消防長に菊池長一郎が就任 職員1名採用
	9月	消防事務組合解散
平成17年	10月	遠野市と宮守村が合併し遠野市となる。 遠野市消防本部発足(1消防本部、1消防署、1出張所) 消防総務課2係(総務係・防災係) 保安施設課2係(保安情報係・施設管理係) 遠野消防署3係(予防係・警防係・消防団係)
	11月	遠野市消防団が遠野市遠野消防団、宮守村消防団が遠野市宮守消防団となる 携帯電話119番直接受信方式運用開始
平成18年	4月	岩手県から産業保安に関することの権限を委譲される。
	5月	救急救命士資格取得1名(計8名)
	6月	国民保護法に関する遠野市条例が制定される。
	12月	第1回遠野市国民保護協議会
平成19年	3月	仙人峠道路供用開始に伴う3消防本部合同防災訓練 遠野市遠野消防団・宮守消防団団旗返納式
	4月	第2代消防長に菊池 守が就任 職員1名採用 消防本部内に遠野市防災センター整備室が設置される。

平成19年	4月	岩手県防災航空隊に職員1名派遣 遠野市遠野消防団、遠野市宮守消防団が統合し遠野市消防団となる。 遠野市消防団第1代団長に細川 巖が就任
	6月	遠野市消防団結団式
	9月	岩手県総合防災訓練(主会場：遠野市)
	11月	三陸地域地震災害後方支援拠点施設整備推進協議会が設立される。
平成20年	1月	宮守出張所に消防ポンプ自動車(CD-I型)を更新配置
	3月	遠野消防署に防火広報車を更新配置
	4月	職員2名採用
	5月	救急救命士資格取得1名(計9名)
平成21年	4月	第3代消防長に奥寺啓蔵が就任 職員3名採用(うち救急救命士資格取得者1名)
	5月	救急救命士資格取得1名(計11名)
平成22年	1月	遠野市消防団機能別分団市役所班を発足
	4月	職員4名採用
		岩手県消防学校教官として職員1名派遣
平成23年	4月	遠野市消防本部庁舎建築工事着工(敷地面積 12,96404m <sup>2</sup> ) 職員1名採用
	5月	救急救命士資格取得2名(計13名) 第4代消防長に千葉一見が就任 第2代遠野市消防団長に井手 純が就任
	10月	高規格救急車を更新配置
平成24年	3月	遠野市消防本部庁舎完成 (床面積：庁舎棟2,264.74m <sup>2</sup> 、訓練棟A605.88m <sup>2</sup> 、訓練棟B317.65m <sup>2</sup> )
	4月	職員2名採用
	5月	救急救命士資格取得1名(計13名)
	7月	遠野市総合防災センター落成式
	11月	遠野消防署に指揮車を更新配置
平成25年	4月	第5代消防長に谷地孝敏が就任 職員4名採用 岩手県防災航空隊に職員1名派遣
	5月	救急救命士資格取得1名(計13名)
平成26年	3月	旧消防庁舎跡地に新張地区コミュニティ消防センターが落成 遠野市防災基本条例制定 救急救命士資格取得1名(計14名)

**遠野市消防本部・署所所在地**



遠野市総合防災センター  
 遠野市消防本部・遠野消防署  
 〒028-0501 遠野市青笹町糠前 10-46  
 TEL 0198 (62) 2119 FAX 0198 (62) 2271



宮守出張所  
 〒028-0304 遠野市宮守町下宮守 29-73-1  
 TEL 0198 (62) 2119 ※消防本部から転送します。  
 FAX 0198 (67) 2037

